

# PoCで止まる会社と、 業務に届く会社。

実証実験を成果につなげるための設計

## この資料で分かること

- PoCが業務に届かない4つの理由
- 始める前に決めておく合格ラインの作り方
- 実証で見るべき数字と、見なくてよい数字
- 本番に移すときに必要になること
- 撤退の判断を先に決めておく意味

オブティソース株式会社 / 2026年版

PoC（実証実験）は、**やること自体が目的になりがちです**。動いた、精度が出た、で終わり、業務には何も変わらないまま次年度を迎える。この繰り返しを断つには、**始める前に「何が起きたら本番に進めるか」**を決めておくしかありません。

## PoCの成否は**終わったあとの手順を先に決めたか**

技術的に動くかどうかは、たいてい動きます。問題はその先で、誰が使うのか、誰が運用するのか、予算はどこから出すのかが決まっていないまま実証だけが終わります。本番移行の条件と担当を先に決めておくと、実証の設計そのものが変わります。

### 「精度が足りない」で止めない

精度が9割でも、人が確認する前提なら十分使えることがあります。逆に9割9分でも、確認できない業務なら使えません。見るべきは精度の数字そのものではなく、その精度で業務が回るかどうかです。

### 01

#### 合格ラインを先に置く

精度何%、作業時間が何分短縮。数字と、それを満たしたら何をするかをセットで決めます。

### 02

#### 使う人を巻き込む

情報システム部門だけで進めると、現場が知らないまま終わります。

### 03

#### 運用の担当を決める

本番に移した後、誰が面倒を見るのか。決まっていない実証は先に進めません。

## PoCが止まる4つの理由と、先手

| 止まる理由      | 何が起きるか                  | 先に打つ手          |
|------------|-------------------------|----------------|
| 合格ラインが無い   | 動いたが、進めてよいのか誰も判断できない    | 数字と次の行動を先に決める  |
| 使う人が不在     | 現場が知らないまま終わり、引き継ぎ先が無い   | 現場から1人、参加者を出す  |
| 運用の主がいらない  | 本番に移す話が誰の仕事でもなくなる       | 運用部門を最初から入れる   |
| 予算が単年度で切れる | 翌年度に仕切り直しとなり、熱が冷める      | 本番分の予算枠を先に確保する |
| データが揃わない   | 実証用データと本番データが違い、やり直しになる | 本番と同じ形のデータで試す  |

## 始める前に決める8項目

- ✓ **何を確かめるのか**  
1つに絞ります。複数あると、どれも中途半端になります。
- ✓ **合格ラインの数字**  
満たしたら本番、満たさなければ中止。両方決めます。
- ✓ **誰が使うのか**  
実際の業務担当者を名前で決めておきます。
- ✓ **誰が運用するのか**  
本番後の担当。ここが空欄なら実証を始めません。
- ✓ **いつまでにやるか**  
期限を切らないと、延々と改善だけが続きます。
- ✓ **本番予算の見込み**  
実証費用の何倍かかるかを、始める前に見積もります。
- ✓ **使うデータ**  
本番と同じ形式・同じ量で試せるかを確認します。
- ✓ **やめる場合の後始末**  
中止したときに何を残し、何を消すかを決めます。

### 実証と本番を続きにする

別プロジェクトにせず、同じ流れの前半として設計します。

### 現場を1人入れる

使う人が関わっていない実証は、まず引き継がれません。

### 期限を切る

1〜2ヶ月で判断します。長引くほど熱が冷めます。

### 中止も成果とする

やらない判断ができたなら、それも投資の回収です。

PoCは、**終わったあとに何をするかを先に決めた分だけ前に進みます**。合格ライン・使う人・運用担当の3つを埋めてから始めてください。当社では、この3つの設計から一緒にしています。

### 相談は無料です

現状を伺ったうえで、やらない方がよい場合はその理由をお伝えします。／ [optisource.co.jp](https://optisource.co.jp)